

ホールが公営のものが多いのに対し、わらび劇場は民営で行われている。劇場だけでなく、温泉宿泊施設やレストラなども揃え、地域の文化交流の場となると共に、観光地としても発展している。多くホールが本来の役割を果たせていない日本で、本来の役割に加え、観光地としても大きく発展した特異性に注目した。

たざわこ芸術村の今の運営形態は、事前構想があったわけではなく、必要に迫られて整えたという背景がある。そのため現在は各施設がほぼ独立して活動を行っている。しかし、どの施設も積極的に活動し、地元だけでなく、全国に

向けて文化発信を行っている。

地域の文化振興に成功しているホールには具体的な事前構想、住民への柔軟な対応、積極的な働きかけという共通点がある。たざわこ芸術村は民営であり、専用劇団を持っているという点で公営のホールとは異なる点も多い。しかし、先の特徴を十分に満たしていた。一般のホールとは異なる点を独自の特徴とし、それが観光地までに発展した大きな要因であった。他に例を見ない、新たな体系の一つとして新しい可能性を示している。

街の魅力：吉祥寺を事例に

高 橋 彩

街にも流行がある時代である。

雑誌の街特集の常連であり、東京都内でも有数の繁華街である街の1つに「吉祥寺」がある。「吉祥寺」はかつて、新宿以西で最大の商業地であったが、近年その人気にかけりも感じられるが、果たしてそうなのだろうか。時代に流されることなく、私たちを魅了し続ける街はないのだろうか。もしあるとすれば、その街にはどのような魅力があるのだろうかと考え、調査を始めた。

雑誌記事の分析や、まちづくりに携わる方々

への聞き取り調査を行って、吉祥寺の発展から現状までを調査したところ、発展にはいくつかの要因があり、吉祥寺の商圈は予想より狭く、街の性格に変化も見られることがわかった。

調査を通して見えてきた吉祥寺の街の魅力は、自然環境から繁華街まであらゆる要素がコンパクトな空間に収まっている多様性とそれらを支える行政、商業者、住民の一体となった取り組みであり、それこそが時代に流されて消え行くことなく私たちを魅了し続ける街にとって必要なものである。

福岡市中央区天神エリアにおけるカフェの研究

徳 永 祐 子

本論文は、喫茶店・カフェの歴史、2000年カフェブーム、地方中核都市福岡市中央区天神エリアのカフェの特徴を調べることによって、カフェが持つ魅力、福岡におけるカフェの役割を調べたものである。

我が国における喫茶店第1号は明治21年に上野に開店した「可否茶館」だと言われている。以来喫茶店は都市のたまり場として機能している。

1990年代に入ると低価格コーヒーチェーンが主流となり、昔ながらの喫茶店の時代は崩壊し

た。シアトル系コーヒーショップが登場すると2000年カフェブームの下地が作られた。

2000年カフェブームとは今まで流行したカフェとは異なる東京（日本）独自のスタイルを持ったカフェが増えたことを指す。本論文ではカフェを①喫茶店②コーヒーショップ③ヨーロッパアンカフェ④食堂カフェ⑤部屋カフェに分類し、福岡市中央区天神エリアの大名地区と今泉地区のカフェを比較した。するとそれぞれの地区の発展の様子によってカフェの分布に違いが見られた。

自由で癒しの空間であるカフェだが人々の交流の場となって地域やまちづくりに役立つこともある。例えば、福岡のカフェ情報サイト「カフェ@ドライブ」では街の清掃活動を行ったり、イベントを開きカフェに集う人々との交流を図っている。また福岡市の指導で福岡市役所の前の広場で特設のカフェを作るという企画もある。九州大学ではキャンパス内に学生が運営するカ

フェが作られ、学内だけでなく学外の人も利用できるようになってきている。福岡のカフェには温かさがあり、これが人々に受け入れられる要因の一つであろう。

天神のカフェによる経済効果は187億円と言われている。福岡の経済をも担う存在であるカフェは福岡の中心地天神を越えて増加していくに違いない。

温泉地「別府」におけるまちづくりの活動と今後の展望 ：竹瓦界隈に焦点をあてて

廣 瀬 曜

日本は3,000ヶ所以上の温泉地をかかえる温泉大国である。一言で温泉と言っても、泉質、雰囲気などは様々である。そのなかから本論文では、長期低迷中の歓楽系温泉地を取り上げ、地元の人々がどのように活性化するかを探る。対象地として、住民主体のまちづくりが行われ、様々なイベントが開催されている大分県別府市を取り上げる。その中でも特に積極的な活動が見られる、竹瓦界隈を重点的に調査を行った。その結果、明確になった事柄と今後の展望を以下にあげる。

別府市全体の視点から見ると、別府市役所、別府市観光協会、別府市の大学に通う学生が、異なった形で、それぞれまちづくりの活動に参加しているのが特徴的である。今後はこの中でも特に、学生の若い力を巻き込んだまちづくりの活動が必要だと考えられている。

竹瓦界隈においては、竹瓦倶楽部が積極的にまちづくりの活動を行っている。3つのウォーキングツアーや夏のイベントは、いずれも竹瓦の

活性化に繋がっている。今後は今以上に地元住民の結束を強化し、まちづくりの活動に生かすことが望まれる。

これから別府市では、移住・永住のビジネスが始動する。まだ企画段階であるため、長期的に見据える必要がある。これが軌道に乗ると、経済効果や雇用の増加、さらに新たな別府市の一面を発信できると考えられる。

まちづくりが順調のような別府市にも問題はある。楠港埋め立て地に関する問題と、浜田温泉の取り壊しと復旧に関する問題である。両者とも行政と住民の間で意見が食い違った。しかし後者の問題は、住民の保存活動が功を奏し、努力が報われる結果となった。これからも、地元の人々の声が政治に反映される環境が求められる。

今後は温泉地「別府」の魅力を発信するためにも、より多くの人々がまちづくりに関わり、変化していくであろう別府を見守っていくことが望まれる。

西新宿における音楽社会空間：レコード店集積の事例から

岩 田 理恵子

西新宿には2004年12月現在で46件（最盛時は1999年の65件）におよぶレコード店が集積している。その下地は、明治時代に交通の要所として新宿が発展しその後もサラリーマンや学生を中心に新しい文化を創り出すなかで形成されていった。人々に映画館や劇場といった娯楽を提

供しながらも、前衛的な芸術作品も受け入れる柔軟性がそこには存在していたのである。

戦後のヤミ市の屋台の中には文化人が集まり、この頃新宿はカウンターカルチャーが根付く場所となっていた。そして文化の先導者である若者によって、60年代に興った音楽のカウンター